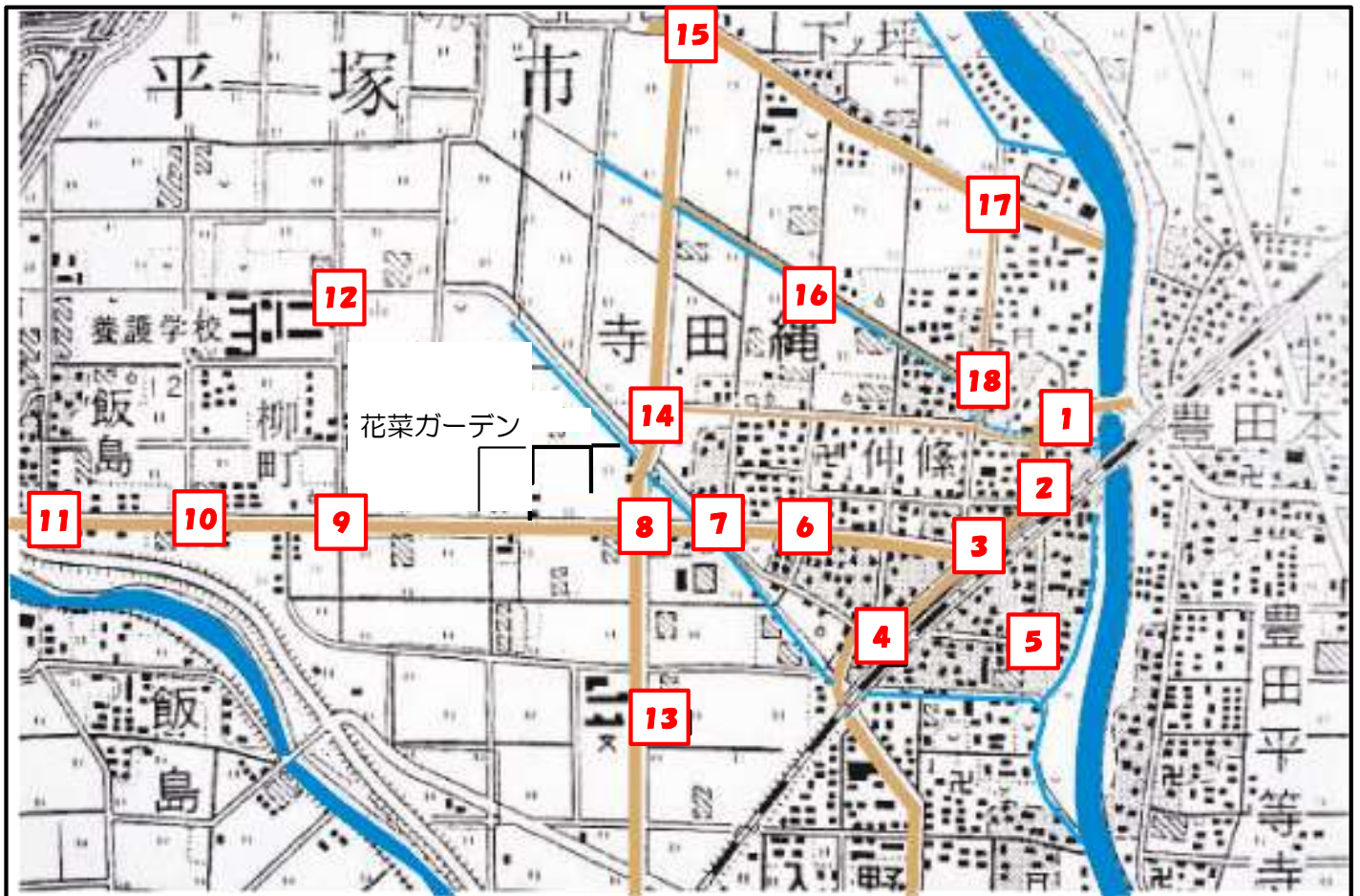


地域の災害を考える (1)

寺田縄地域の標高値から、地形の特徴を知る

(平塚市公共下水道台帳閲覧システム・ホームページ用下水道台帳 平成26年3月作成)

主な寺田縄地域の標高値を記します。

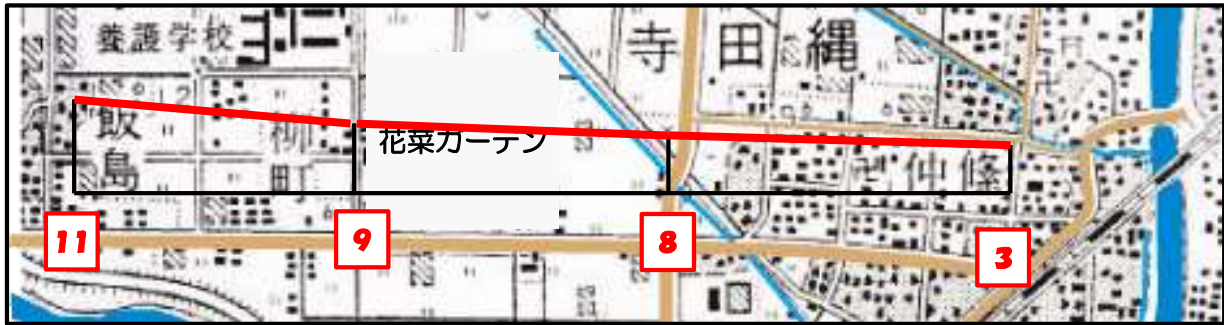


■ 赤字は、それぞれの地点の標高値を示しています。

1	8.66	2	8.23	3	8.27	4	8.27
5	8.13	6	8.66	7	8.86	8	9.14
9	11.45	10	13.15	11	14.64	12	10.36
13	9.71	14	9.38	15	10.12	16	8.88
17	9.78	18	8.36	数値：メートル			

寺田縄地域の標高値の概要

(1) 寺田縄地域の東西方向：**3**、地点から**11**、地点までの道路



この道路の名称は <平塚市幹道13号 寺田縄・飯島線> といいます。

	標高値		標高値	標高差
	3 8. 27 m		8 9. 14 m	0. 87 m
	8 9. 14 m		9 11. 45 m	2. 31 m
	9 11. 45 m		11 14. 64 m	3. 19 m
*	3 8. 27 m		11 14. 64 m	6. 37 m

* 新幹線高架付近から飯島のつくし幼稚園付近との高さの違いは、6. 37mになります。その高さは、おおよそ、二階建ての家に相当し、飯島を出発する自転車は、ペダルを踏むことなしに「三七橋」近くまで走ることができるかもしれません。(試すには、信号2か所、要注意です)



(注) 図中の — 線は **11** ~ **3** 地点までの勾配の概要を記します。

(2) 寺田縄地域の南北方向 ①：

13、地点から**15**、地点までの道路

<平塚市幹道26号 入野・岡崎線> といいます。以前は農免道路と呼ばれていました。

- 13**、地点は、金田小学校前 標高値 9. 71 m
- 8**、地点は、信号機のある交差点 標高値 9. 14 m
- 14**、地点は、古川へ抜ける道 標高値 9. 38 m
- 15**、地点は、岡崎地区との接点 標高値 10. 12 m

* 15地点は 10 m台ですが、その他の平均は 9. 41 mです

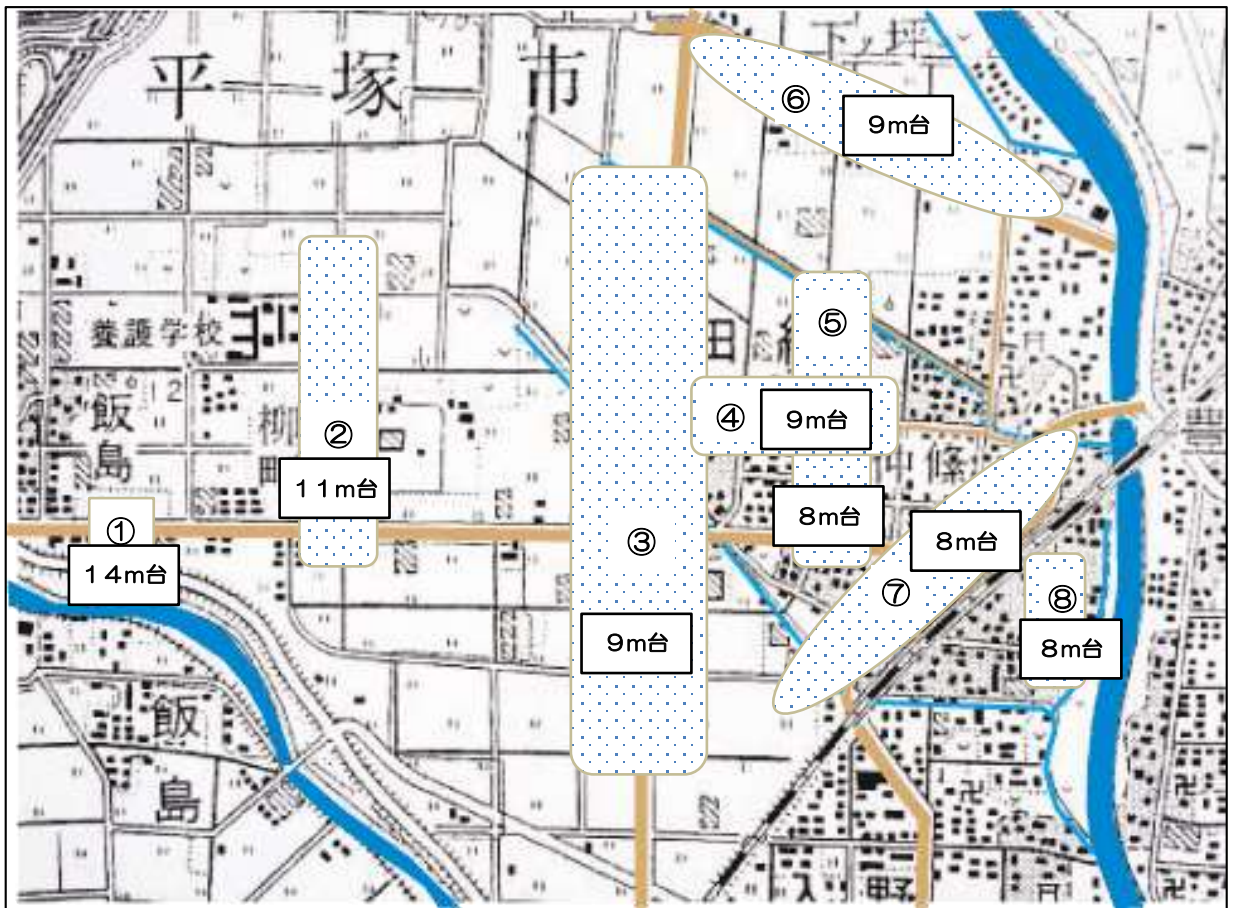
(3) その他①： **7**、地点の「三七橋」から東側、
新幹線ガードまでの地域 **1**、から**4**、までと **6**、**16**、**18**、の地点

* その多くの標高値は 8mの前半台です。

(4) その他②： 新幹線ガードより東側、**5**、地点は 8. 1 3mで低い測定値です。

標高概要を面で図示（1～8まで、大まかな標高値を範囲でまとめました）

（平成14年国土地理院発行地形図・改）



地図上の地点

- ① <平塚市幹道13号 寺田縄・飯島線> 飯島付近：標高14m台
- ② <市道25号線> 花菜ガーデン入口付近、南北の範囲：標高11m台
- ③ <平塚市幹道26号 入野・岡崎線> 金田小学校から岡崎方面付近：標高9m台
- ④ <市道16号線> 焼き鳥窓から西方面付近：標高9m台
- ⑤ <市道11・13号線> 蓮昭寺前の南北の範囲：標高8m後半台
- ⑥ <市道22号線> 岡崎地域との境界付近：標高9m後半台
- ⑦ <平塚市幹道9号 長持・寺田縄線> 東海道新幹線沿線北側付近：標高8m前半台
- ⑧ <市道1号線> 逆L字型道路付近：標高7m末から8m前半台

■ 一般的な傾向 <寺田縄の地形は、東方向と南方向に行くほど低くなります>

<寺田縄・飯島線>に見られるように、飯島地域から東海道新幹線の高架線に向けて低くなり、標高差は6.37mとなっています。

寺田縄の北部、岡崎地域との境界は9m台の高さで、南方面は、8m台です。

■ 排水路の流路 <東方向に低くなります>

「えのしろ」「金田」「古川」の排水路の流路は、いずれも東に流れ、鈴川に落ち込んでいます。

■ 灌漑用水と水田 <耕地整理の結果、水田面はわずかな高低差ですが、東に低くなります>

飯島方面から東に流れる農業用水は地形を反映しています。水田面の高さも西から東に低くなり、耕地整理は、わずかな高低差をつけた段々形式に施されています。

■ 地域の地形

おもな河川は「金目川」と「鈴川」の二河川が流れています。寺田縄地域全体としては、この両河川が作りだした扇状地的な地形となっています。

地域の東部方面では、地下水位が高く、かつて、地下水を汲み上げることなく、自然に噴き出る「自噴の井戸」が利用されていた所もありました。

■ この地形特徴は 東海道新幹線の高架線建築にも反映されています。

(神奈中バス停「東橋」から西側)

「新幹線の線路が寺田縄を通ることが決定し、昭和34年4月から工事に着手し5年間で完成する」との方針が平塚市に示されました。これを受け、国鉄新幹線対策委員会が市長を委員長に組織され、国鉄との交渉に当たりました。地元には国鉄新幹線対策同盟も組織され、交渉の場に加わりました。

数次にわたる国鉄との交渉では、交渉要件として用地保障の経済面を初め、線路を高架線方式とするか、築堤方式とするかについても話し合われました。

現在の新幹線の線路は「東橋」付近から高架方式となり、「金田駐在所」付近のガード以西が築堤となっています。国鉄は「市街地については高架線にすることが原則」と示していましたが、現在の新幹線の高架付近はとて市街地とは言えません。


交渉の中で委員会から「水害予防対策として築堤施工に当り水溜り等の生ずるおそれのある特殊な地域に対しては高架線又は水害予防特殊構造とすること」の条件が示されました。国鉄からは「水害予防については国鉄としても運転保安上関心を持たざるを得ないので、市側の要望を尊重して詳細調査の上施工する考えである」との回答を得ました。

委員会が国鉄に要望した高架範囲は「延長5000m」でしたが、国鉄の回答は「1000m」程度であったようです。さらに委員会側からは、「豊田の平塚落合線100m位から東橋を渡り金目川まで1700m」との要望が出されました。この要望は地元からも陳情書が出されていることでもあり「県道平塚落合線から西方へ国鉄線計画の地域まで400m」「(旧)金田小学校西方へ200m」を追加の

要望として国鉄側に示されました。(平塚市史8資料編現代) その後今日に至る交渉の経緯は史料が無く不明です。結果は現状となりました。

寺田縄地域を走る新幹線の高架方式は、お分かりのように「水害対策」にありました。洪水の時には、新幹線の築堤で水が滞ることなく、東の方面、鈴川、豊田・中原地域に流すための方式でした。


江戸期には「控え土手」をもって洪水を防ぐ手立てがとられていましたが、現代では、洪水の水を滞らせることなく流出させることにより、地域住民の生活と命を守る選択がなされたこととなります。

地図上の  は、東海道新幹線の高架部分です。

寺田縄地域の東部方面、標高の低い地域に設けられています。

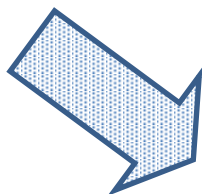
「鈴川」を渡ると豊田地区です。



 撮影の方向です。
(参考) 豊田平等寺の標高は、7.7mです。

写真は東海道新幹線の高架橋を西側から見ています。

国鉄との議論の末建設されました。仮に寺田縄西部の金目川が決壊し、洪水になったときに、濁流は高架下を流れ抜けます。



想定される洪水が発生したとき、水の流れを示します。

写真にある、新幹線の高架に沿う道路は、寺田縄地域の東部「平塚市幹道9号 長持・寺田縄線」で、この地域の標高は8m台前半です。高架をくぐると「逆L字形」の道路へ続き、標高はやや低くなります。